

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		押し花しおりづくり教室実施事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会	課長名	上原 哲也	
	施策	20	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	大高知加子	
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供					所属班	図書館班	(内線)	2511	
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10804	法令根拠	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果				
終了、開始年度		☒ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	読書週間行事として、講師を呼んで押し花しおりづくりをする。作製したしおりは図書館まつりに図書館利用者へ配布。 ・読書週間のイベントとして平成18年度より開始・事業開始当初は大人のみの参加募集でしたが、平成19年度からは小学4年生以上で募集をした。21年度は新聞を使ったエコバック作りも併せて開催したので両方に参加できたこと好評であった。平成21・22年度は図書館まつりの中で実施した。今後は図書館まつり事業に組み入れて実施する。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	押し花づくりの講師を依頼し、市民にしおりづくりの周知をする。参加者を募集し、図書館まつりで押し花しおりづくりをする。作製したしおりは参加者および図書館まつりに来館した利用者へ配布する。
【主な予算費目】	報酬、需用費（消耗品費）
【意見や要望】	・図書館まつりの中での開催で、参加者が作成するため職員の負担が軽くなった。押し花は講師の先生が用意してくださるが、出来ない場合の台紙の準備も必要である。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
・読書週間行事として図書館まつり開催中に開催し、図書館まつりの参加者に呼びかけ、講師指導のもと押し花しおりづくり教室を開催した。 ・作成したしおりは、参加者及び図書館利用者に配布した。		
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア しおり作り参加者数	人	図書館まつり実施事業に統合
イ しおり配布枚数	枚	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・合志市民		→ ア 図書館まつりの西合志図書館利用者数
・しおりの配布対象は図書館利用者		イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
・本に親しむきっかけをつくり、図書館を利用してもらう。		→ ア しおり作り参加者数
		イ しおり配布枚数
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	人	33	48	30	48	0	0	0	
	イ	枚	600	600	600	600	0	0	0	
② 対象指標	ア	人	5,142	1,684	1,700	1,976	0	0	0	
	イ									
③ 成果指標	ア	人	33	48	30	48	0	0	0	
	イ	枚	600	600	600	600	0	0	0	
投 入 費 量	事業内訳	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	13	8	14	14			
	人件費	(A) 事業費計	千円	13	8	14	14	0	0	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正職員従事人数	人	2	3	2	4	0	0	
入 費 量	人件費	延べ業務時間	時間	7	16	15	55	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	28	63	59	226	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	41	71	73	240	0	0	

合志市

事務事業名	押し花しおりづくり教室実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 ・図書館まつりの中の開催であるため、日程及び会場の制約があり、参加者数を増やせない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・読書週間の行事として開催している図書館まつりの一事業として、まつりの日程に組み入れ統合する。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・押し花の材料・道具などは全て講師の先生に用意してもらっている。最低限の費用で行っているため、削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・周知のためのポスター製作や講師の手配等以外は、当日まで手間はとらない。業務時間の削減は難しい。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

自分でデザインしたしおりを持ち帰ることができ好評を得ている。また、図書館まつり時の貸出カウンターで利用者へも配布した。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 図書館まつり事業に統合																							
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							